



多職種実践のPDCAサイクルを促進するF-SOAIPによる好循環 ～専門職および職能団体等への支援～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

烏末 憲子 准教授

【研究分野】 ソーシャルケア、対人支援 多職種連携、地域包括ケア

【キーワード】 F-SOAIP、生活支援記録法、PDCAサイクル、IPW、リフレクション、専門職支援、職能団体支援

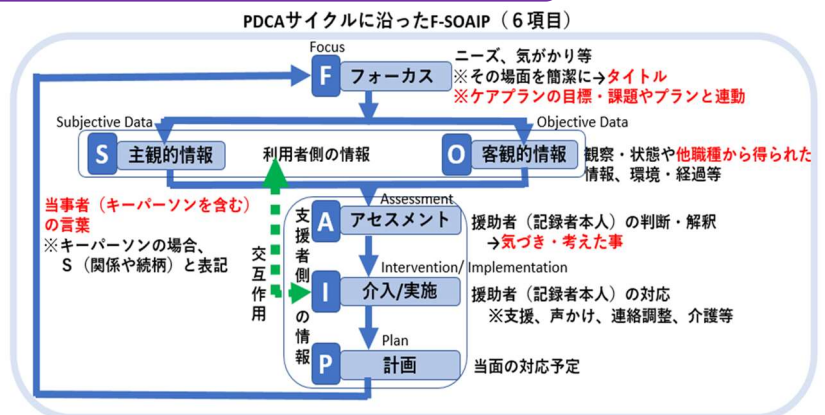
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=198shima>



研究概要

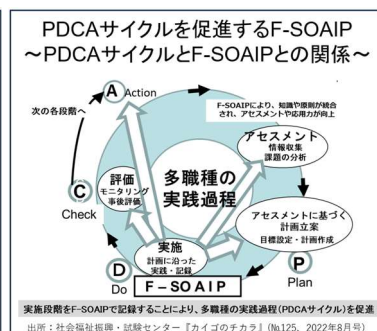
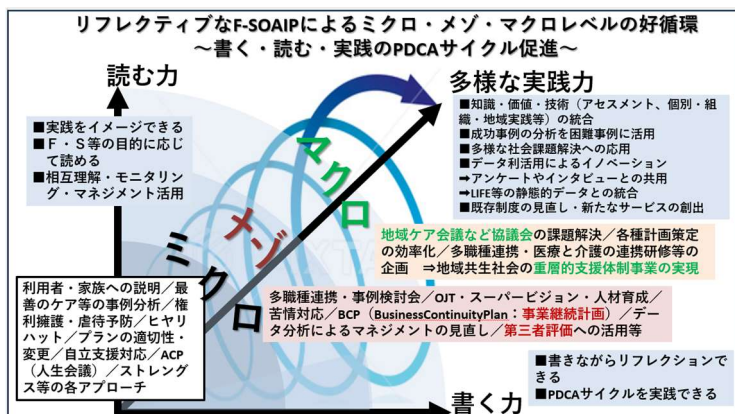
効率的かつ効果的活用が可能な経過記録として、F-SOAIP（エフソ・アイピー）を開発しました。F-SOAIPとは、①多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、②生活モデルの観点から、③当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、④F-SOAIPの項目で可視化し、⑤PDCAサイクルに多面的効果を生む、⑥リフレクティブな経過記録の方法である。（Ver.4、2019年11月）

利用者や家族・対人支援専門職・団体向け



研究紹介

厚生労働省HPIに「介護分野における生産性向上の取り組みを促進するツール」として、F-SOAIPを取り上げた介護記録法の標準化（老健事業）の報告書が掲載・紹介されています。



F-SOAIP基本テキスト



烏末憲子・小嶋章吾『医療・福祉の質が高まる生活支援記録法[F-SOAIP] 多職種の実践を可視化する新しい経過記録』中央法規出版、2020年

講座テーマ紹介

- 医療福祉専門職向け：F-SOAIPによるIPWの促進～ミクロ・メゾ・マクロレベルでの活用～
- WEB開催2024埼玉県立大学「専門職連携を学ぶ講座」IPWを促進するF-SOAIP研修 6/14(金)8/2(金)9/20(金)10-17時
- 医療福祉を学ぶ学生向け：教育課程で学びたかったという要望に応えます。上記のリーダー研修修了者等が対応予定。

アピールポイントなど

- F-SOAIP研修：各都県の介護支援専門員協会、地域包括・在宅介護支援センター協議会、社会福祉協議会、高齢・障害・医療等の法人、福岡県・政令市児童福祉司会等で実施してきました。
 - 実践報告によれば、利用者・家族からも好評であり、ボランティアや民生委員の皆さんの共感性も高まるとのこと。
 - ワークショップ等：日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本介護福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会等
 - 自治体、国公立のや民間の病院、社会福祉法人や地域包括支援センターなどでも導入が進んでいます。
 - 実践報告：『月刊ケアマネジメント』『訪問リハビリテーション』『カイゴのチカラ』『認知症ケア』『住民行政の窓』『最新医療経営PHASE3』『月刊新医療』『看護管理』『ナースングビジネス』『エキスパートナース(2024年8月号～)』『臨床栄養』『おはよう21』等／
 - F-SOAIP実践・教育研究所(共同代表者：国際医療福祉大学大学院特任教授 小嶋章吾)
- <http://seikatsu.care> 本シーズ「自治体・メディア向け」や「システムベンダー・研究者向け」もご確認ください。